

平成27年度宮古群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

I 4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平年並	30	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成27年3月12日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.4	25.1	20.2	160.3	123.2

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 4月の発生予報および防除上の注意事項

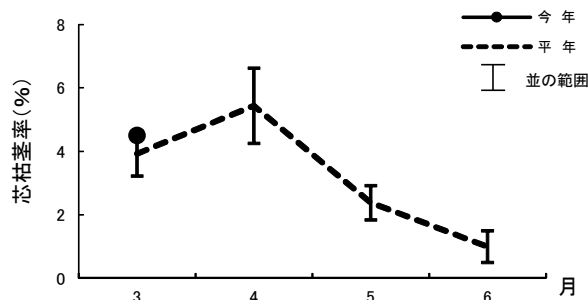
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

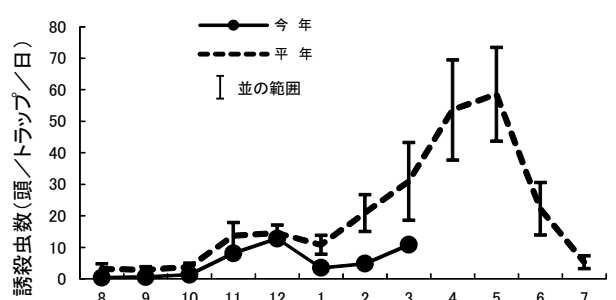
発生程度 : 並

予報の根拠

- a 3月中旬の調査の結果、株出ほ場における芯枯茎率は4.5%(前年3.3%、平年3.9%)と平年並であった。
- b 3月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は10.8頭(前年24.1頭、平年30.9頭)と平年よりやや少なかった。



新植・株出圃場における芯枯茎率の推移

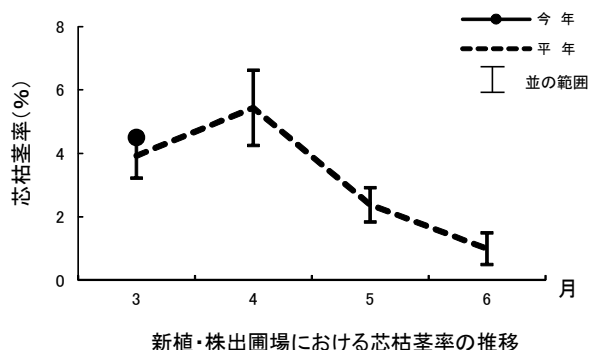


カンシャシクイハマキの誘殺虫数の推移

<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

- イネヨトウの防除対策
3月中旬の調査の結果、株出ほ場における芯枯茎率は4.5%(前年3.3%、平年3.9%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

- カンシャコバネナガカメムシの防除対策
 - a 3月初旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.7頭(前年0.8頭、平年33.6頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 2~3月の気温に基づく、3月18日時点での防除適期は、宮古島で平年より2日程度、多良間島で3日程度遅いと予想される。
 - c この時期に茎当たり虫数が20頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
 - d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう、風向きに注意する。

防除適期予想日(3月18日現在)

地域	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
宮古島	4月9日~4月23日	4月16日	4月14日	2日遅い
多良間島	4月4日~4月18日	4月11日	4月8日	3日遅い

- バッタ・イナゴ類の防除対策
 - a 3月下旬の調査の結果、一部ほ場および隣接草地で発生がみられた。
 - b 発生源となるほ場および周辺の除草を徹底する。
 - c 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
 - d 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成26年5月30日付)。

2 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、一部施設で多発していた。
 - b 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
 - c 不用な新葉は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
 - d 幼果が食害されると果実品質が低下するので、幼果時期の薬剤防除を徹底する。
 - e 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

3 かぼちゃ

○ うどんこ病の防除対策

- 3月中旬の調査の結果、発病葉率は57.2% (前年55.0%、平年63.1%)と平年並であった。
- 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- 着果後は防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

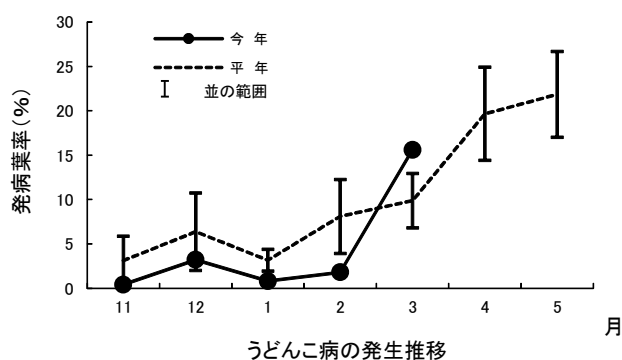
4 にかうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度 : やや多

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は15.6% (前年17.2%、平年9.9%)と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

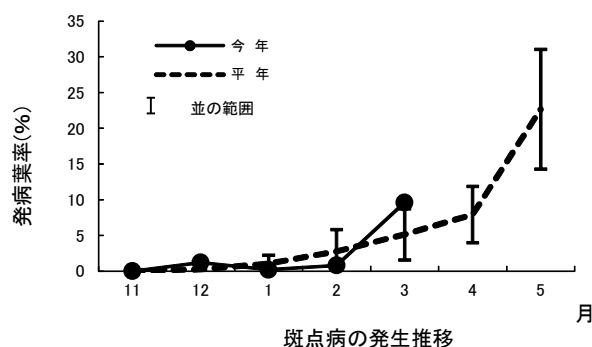
- 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

(2) 斑点病

発生程度 : やや多

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は9.6% (前年0%、平年5.1%)と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

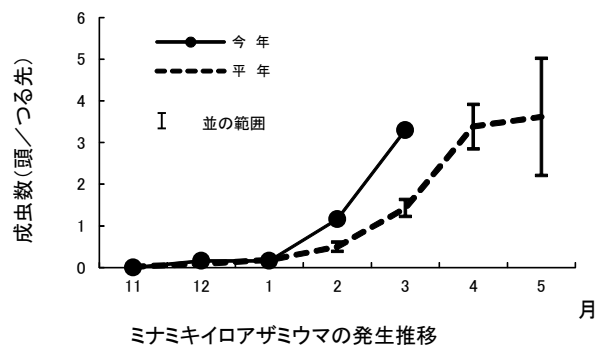
- 老葉や病葉は発生源になるので除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- 中～下位葉をよく観察し、初期発見・初期防除に努める。

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は、0.1頭未満(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年並であった。
 - b 今後の気温上昇に伴い、本種の発生が増加することが予想される。
 - c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
 - d 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
 - e 平成26年度病害虫発生予報第1号(平成26年3月24日付)号コラム参照。

5 とうがん(施設)

- (1) ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : 多
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、つる先当たり成虫数は1.2頭(前年0.2頭、平年0.5頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
 - b 除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
 - c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- タバココナジラミの防除対策
 - a 3月中旬の調査の結果、葉あたり成虫数は0.2頭(前年0.1、平年0.1頭未満)と平年より多かった。
 - b 多発すると、果実やつる先、巻きひげが白化する。
 - c 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
 - d 除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
 - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。